

単元案の概要

テーマ
Our School Year Starts（英語表現Ⅰクラス開き）
目標
学習レベル 3 ○ 自分の興味・関心（趣味や部活動、好きな人物・食べ物、家族など）についてクラスメートに話したり、質問を受けたりすることができる。 ○ クラスメートの自己紹介を聞いて理解し、対話を深めるために質問をすることができる。 ○ 英語表現の授業では、英語を使ってコミュニケーション活動を行うことが中心であることを理解し、高校における英語の学習について前向きな展望を持つことができる。
コミュニケーション能力指標
自分と身近な人々 3-a 自分や身近な人の特徴について、口頭でまたは書いて紹介しあうことができる。 3-b 好きなことやもの・人について、その理由を含めて、口頭でまたは書いて紹介しあうことができる。 3-c 自分の経験について、語りあったり、書いて伝えることができる。 3-g 将来の夢や希望について、語りあうことができる。
学習シナリオ
札幌西高校では、将来、英語をはじめとする外国語をもちいて、国際的に活躍することのできる人材を育てようとしている。1 年生に開設している外国語の科目は、「コミュニケーション英語Ⅰ」（3 単位）と「英語表現Ⅰ」（2 単位）の 2 科目があるが、このうち、英語表現Ⅰにおいて、英語を使った様々な表現活動を体験することを通じて、外国語を使って自分について表現したり、他者の考えを理解したりすることの楽しさを伝えたい。 入学直後に実施する本単元では、1 クラス 40 人からなる学級が、クラスの中では自由に自分の考えを英語らしい発音で表明してよい、居心地のよい場所となるのだという期待感をもたせたい。そのため、教員を含めた学習集団の親和関係の形成に特に意を用い、自己紹介を通じて、他者の話に耳を傾け、共通の話題を共有することのおもしろさを味わうことのできるよう支援する。 また、大人を含めた他者が高校生活について持っている思い出や考えなどについて、英語でインタビューを行い、調査結果を英語で発表させる。教科担任は、生徒が英語でインタビューを行うことのできる大人を確保するため、同じ英語科担当教員だけでなく、初歩的な英会話が可能で、趣旨に賛同し協力する校内の教職員や保護者の協力も仰ぎ、生徒の学習活動を支援することとなる。

- アイスブレイキング（英語の使用状況について形成的評価）
 - ・ JTE 及び ALT の簡単なテンプレートに基づく自己紹介をみたあと、生徒は自分の自己紹介を考える。
 - ・ 次に日本語を使わず英語だけで、互いの誕生日を確認し、教室内で生まれ月ごとに⑫のグループに分かれる。
 - ・ グループの中で、自己紹介を発表する。順番は誕生日を尋ねあい、生まれた順番に行う。
- 言語材料の学習
 - ・ 教科書を使って、自己紹介や相手に肯定的な反応を示す相づちや質問のしかたを学習する。（ワークシートやワークブックによる総括的評価 1）
- 中学校時代の経験・高校生活へ期待・将来の夢・趣味などについて書く
 - ・ 80～100 語程度を目標にモデル文を参考にして英文を書く（ワークシートの提出による総括的評価 2）
- インタビューによるサーベイ
 - ・ ①中学校（大人に対する調査の場合は高校生活）で一番打ち込んだこと、②高校生活に期待する内容、③将来の夢、④好きな食べ物、⑤趣味などのトピックの中から、グループごとに話しあって、インタビュー項目を決定する。
 - ・ 次に教室全体を使ってクラスメートのできるだけ多くにインタビューを行う。（観察による形成的評価）
 - ・ さらに、放課後や帰宅後の時間などを活用して、校内の教職員（協力登録者）、保護者などにもインタビューを行うことができる。
 - ・ インタビューの結果をグループに持ち帰って、サーベイの結果を集計し、ポスターを作成する。その際、サンプルを提示するなどして、ビジュアルエイドの活用について理解させる。
- ポスター・プレゼンテーション
 - ・ 作成したポスターをビジュアルエイドとして使い、グループごとに英語で結果を発表する。（発表へのコミットメントや発表のパフォーマンスにより総括的評価 3）
 - ・ 発表を見る生徒による生徒間の相互評価を行う。

総括的評価

- ・ モデルを参考にして自分の中学校生活について 50 語程度の英語を書くことができるかどうか、ワークシートを提出させる。
- ・ 資料をまとめて簡単なポスターにし、英語で結果を発表できるかどうか観察する。
- ・ 教室内の言語活動に積極的に取り組むか観察する。
- ・ 生徒自身による自己評価や生徒同士の相互評価を行い、その結果を参考とする。

「外国語学習のめやす」マスター研修 2013 課題発表：目標設定・活動・評価

作成者：北海道札幌西高等学校教諭 伊藤都章

3 × 3 + 3 分析

	言語領域	文化領域	グローバル社会領域
わかる	- 自己紹介に必要な語彙・表現がわかる。 - 自分の好きなこと、部活動、家族などについて話したり聞いたりするのに必要な語彙・表現がわかる。 - 会話を円滑に進める態度についてわかる。	- 中学校とは異なる高校生活特有の事情について、英語でどのように表現するかわかる。 - 教室では英語を英語らしく話すことが重要であり、高く評価されることがわかる。	簡単なフォーマットとポスターなどのビジュアルエイドを使って情報を整理して話すと、話しやすく、また聞き手にはわかりやすいことがわかる。
できる	- 名前や趣味、好きな教科・科目や部活動などについて、友達に紹介できる。 - 英語をできるだけ英語らしく話そうと努力できる。	- 声をかけたり、あいさつしたりすることができる。 - 話すときには相手の目を見て、話すことができる。	ポスターや写真などのビジュアルエイドを使ってわかりやすい発表を行うことができる。
つながる	教職員や ALT、保護者などに対して英語のインタビューを行うことにより、世代を超えて交流する。	教職員や ALT、保護者の高校生活についての話を聞いたり、インタビューを行うことにより、時代や国により高校生活が多様であることを知る。	- 他者に対するインタビューによる調査の結果をまとめ、分析し、発表できる。 - 他者の発表に対して質問したり、意見や感想を述べたりできる。
三連携	連携 1：趣味や好きな教科など生徒の関心事を生かした活動 連携 2：調査結果のまとめや発表における統計、ポスターの作成 連携 3：英語科教員・ALT 及び他の教職員、保護者との連携		

「外国語学習のめやす」マスター研修 2013 課題発表：目標設定・活動・評価

作成者：北海道札幌西高等学校教諭 伊藤都章

目標の要素分解

個々のタスク	小目標	中目標	大目標
趣味や家族構成、好きな食べ物、将来の夢、高校生活への期待などに関わる語彙や表現を理解している。	自分の好きなものや将来の夢などについて英語で話すことができる。	相手の好きなものや部活動、将来の夢などについて英語で話しあうことができる。	クラスメートや大人に対する好きなものなどについてのインタビューを英語で行い、結果を英語で発表できる。
趣味や家族構成、好きな食べ物、将来の夢、高校生活への期待などに関わる語彙や表現を理解できる。			
趣味や家族構成、好きな食べ物、将来の夢、高校生活への期待などに関わる語彙や表現を理解できる。	相手の好きなものや部活動、将来の夢などについて尋ねることができる。		
結果について数字や比較を取り入れながらかんたんに発表することができる。	インタビューの結果を分類・整理し、話すことができる。	簡単な調査結果の概要を、図やキーワードで示したポスターを基にして、英語で説明することができる。	
キーワードやタイトルを考えることができる。	調査の結果の要点を図やキーワードで表現することができる。		
キーワードやタイトル、数字などを図や表で表現したビジュアルエイドを作ることができる。			

「外国語学習のめやす」マスター研修 2013 課題発表：目標設定・活動・評価

作成者：北海道札幌西高等学校教諭 伊藤都章

評価ルーブリック

テーマ：英語で伝える自分のこと・高校生活のこと

指示文：1年生のコミュニケーション英語Ⅰでは、最初のレッスンで、英語による自己紹介とインタビューを行います。

- ・ 自己紹介では、自分の名前、出身中学校、趣味、部活動、好きな食べ物、将来の夢などについて、ポスターを使ってわかりやすく話してもらいます。
- ・ インタビューでは、高校生活に関わることのなかから、グループでテーマを決め、クラスメートや西高の先生（英語科の先生やジョン先生だけではなく、他教科の先生や校長先生、教頭先生も英語でのインタビューに協力してくれます！）を行います。インタビューの結果を、わかりやすく図や表を使ったポスターにまとめてクラスで発表します。皆さんの家族にインタビューし、調査結果に加えても OK です。

評価基準	目標以上に達成 (4点)	目標を達成 (3点)	目標達成まであと少し！ (2点)	目標達成まで努力が必要 (1点)
ワークシートの英文	豊富な語彙・多様な文法・表現を適切に使っている。	必要場語彙・文法・表現をおおむね正しく使っている。	時々語彙や文法・表現の間違いが見られる。	語彙や文法・表現の間違いが多く、意味を伝えるのに苦労している。
英語の表現	英語らしい発音だけでなく抑揚にも気を配って発話することができている。	英語らしい発音を心がけ、発話することができている。	英語らしい発音をしようとする努力が見られるものの、言いよどみや言い間違いがある。	英語を話そうとする努力は見られるものの、相手にうまく伝わるようには発話できていない。
アイコンタクト	相手の目を見て表情や抑揚を生かして、自己紹介ができる。	相手の目を見て自己紹介ができる。	ときどき顔を上げることができるが、メモやノートを読んでいることが多い。	必要な内容を伝えようとする努力は見られるものの、誤り（文法・スペル）が多く、十分に伝達できていない。
インタビューのできた人数	20人以上にインタビューすることができた。	10人以上にインタビューすることができた。	5人以上にインタビューすることができた。	あまりインタビューできなかった。
ポスターの工夫	ビジュアルエイドを工夫し発表を非常にわかりやすいものにしている。	ビジュアルエイドを適切に使って、調査結果から導いた内容を伝えることのできるポスターを制作できる。	ときおりビジュアルエイドを使うが、発表内容の理解を助けるものとなっていない。	発表の内容にあまり関係のないビジュアルエイドか、またはまったくビジュアルエイドを使っていない。